



幸せのオリーブ

# 香川大学教育学部 附属教職支援開発センター センターニュース

**No.5**



教育実習(副免)(2017.09)4年次



## TOP NEWS 平成29年度 附属教職支援開発センターを紹介します!

附属教職支援開発センターは、平成29年度も、実践的指導力の向上及び教職支援体制の充実のため、学部と附属学校園、香川県教育委員会等と連携・協働して、実地教育及び教職支援、教育開発の推進的役割を果たすことを目的として、活動に取り組んで参ります。

本センターの決算、予算及び事業計画については、7月5日(水)のセンター運営会議において承認されました。平成29年度の各部門(実地教育推進部門・教職支援推進部門・教育開発推進部門)で実施予定の活動は以下の通りです。

- 【実地教育推進部門】** 1年次；＜学校理解＞ 「教職概論」「大学入門ゼミ」  
 2年次；＜子ども理解＞ 「教育実践プレ演習」  
 3年次；＜授業理解＞ 「教育実践演習」(教育実習事前事後)  
 4年次；＜教職理解＞ 「教職実践演習」

- 【教職支援推進部門】** 教職志望学生への支援；日常の支援・教採への支援・相談活動等  
 現職教員への支援；講演会の開催・相談活動等  
 ※公開講演会に関しては、香川県教育センター及び香川大学教育学部後援会(松楠会)との共催により実施。

- 【教育開発推進部門】** 研究活動の報告；『香川大学教育実践総合研究』の編集発行(年2回)  
 「教育実践集中講座資料集」の発行  
 広報活動；「センターニュース」の発行(年2回)  
 その他；教師教育用映像教材の閲覧・貸出サービスの実施

なお、本センターの平成29年度のメンバーは、センター長1名、専任教員2名、兼任教員8名、教務職員1名、事務補佐員2名、さらに3名の客員教授で構成されています。

(文責：センター長 七條正典)



あかね色に染まる教職センター(2017.09撮影)

平成29年度 附属教職支援開発センター 事業計画	2
第1期(5~7月)教育実践集中講座 実践報告	2
【Photo NEWS】学部教員と附属坂出小学校教員との合同研究集会	3
附属高松中学校 教育研究発表会 報告	3
寄贈図書	4
教職支援開発センター活動報告／教育実践総合研究(第36・37号)原稿募集	4

## 1 実地教育に関する企画・運営；実地教育推進部門 <実地教育委員長(櫻井)、センター>

- (1) 「教職概論」(「大学入門ゼミ」含む) (1年次) <教員養成課程主任(山本(茂))、松下>
- (2) 「教育実践プレ演習」(2年次) <未来留担当(宮崎)、松下・七條>
- (3) 「教育実践演習」(事前事後指導) (3年次) <センター長、山岸・十河>
- (4) 「教職実践演習」(4年次) <実地教育委員長(櫻井)、山岸・佐藤(盛)・十河>

## 2 教職支援に関する企画・運営；教職支援推進部門 <学生支援専門委員長(野崎)、センター>

- (1) 教職志望学生への支援活動<学生支援専門委員長(野崎)、宮前(義)・山本・植田・田崎・佐藤(盛)・十河・片岡・宮前(淳)>
  - ・説明会、自主サークルへの支援、願書作成、卒業前直前対策実践講座等教授対応
  - ・進路に関する相談、教職に関わる悩み等相談活動
- (2) 現職教員への支援活動<センター長、山岸・宮前(義)・山本・植田・田崎・佐藤(盛)・十河・片岡・宮前(淳)>
  - ・指導力向上のための公開講演会等の開催
  - ・学習指導や生徒指導等を含む教育相談活動
- (3) 教育実践集中講座<松下、大山・東条・岡>

## 3 教育開発に関する企画・運営；教育開発推進部門 <附属担当副学部長(野崎)、センター>

- (1) 教材・資料の収集・管理・活用支援<事務・松下>
  - ・研究資料の収集・管理、教材・機器等の共同利用のための整備、ICT機器の活用支援、ソフト・ビデオの閲覧貸出等
- (2) 研究活動の報告等<松下・山岸>
  - ・「香川大学教育実践総合研究」の編集、教育実践集中講座資料集等
- (3) 広報活動<松下・事務>
  - ・ホームページ、センターニュース、パンフレット等
- (4) 関係機関との連携<附属担当副学部長(野崎)、七條・山岸・松下>
  - ・関係機関との連携による共同研究、附属学校園等との共同研究等

## 4 その他

- (1) 学部・大学院関連授業科目及び卒論・修論指導

## 第1期(5～7月)教育実践集中講座 実践報告

### 「教師になる」とはどういうことか？ ～「先生」と呼ばれる日への第一歩～

附属教職支援開発センター客員教授 大山 修・東条 直樹・岡 静子

<p>[第1回] 5月11日(木) 教育法規・教育施策 「ノウハウ集団面接」(岡)</p> <p>[第2回] 5月13日(土) 教育法規 「教育目標と教師に求められる力」(大山) 「教員になる①」(東条)</p> <p>[第3回] 5月15日(月) 教職理解 「教職の魅力 教職とは」(大山)</p> <p>[第4回] 5月15日(月) 学級経営 「学級で育つ子どもたちのために」(岡)</p> <p>[第5回] 5月20日(土) 教育法規 「教育課程と学校評価」(大山) 「教員になる②」(東条)</p> <p>[第6回] 5月27日(土) 教育法規 「生きる力と学力」(大山) 「教員になる③」(東条)</p>	<p>[第7回] 6月12日(月) 生徒指導 ケーススタディ 「生徒理解を基盤とした生徒指導」(大山)</p> <p>[第8回] 7月10日(月) 道德教育 ケーススタディ 「子どもの心を耕す道德の授業」(大山)</p> <p>[第9回] 7月10日(月) 子ども理解 「場面指導(ロールプレイ)」(岡)</p> <p>[第10回] 7月20日(木) 子ども理解 「場面指導(ロールプレイ)」(岡)</p> <p>[第11回] 7月24日(月) 子ども理解 「場面指導(ロールプレイ)」(岡)</p> <p>[第12回] 7月26日(水) 子ども理解 「附属学校参観の心構え」(東条)</p>
---	--

第1期の集中講座では、〈教員採用試験に向けての準備講座であること〉〈教育法規等の各テーマについて、具体的な事例をもとにケーススタディを行うこと〉を趣旨として計12回の講座を実施しました。

1～4年生を対象とした講義を進める中で、特に4年生の真剣な受講態度には感心させられました。講義の内容一つ一つに主体的に取り組み、グループ演習では、全員が自分の意見をしっかり述べるなど、見ていて気持ちが良いものでした。やはり、教育実習を経験したことで、子どもたちを指導するという責任と自覚が芽生えたのではないかと思います。

講座では、教員として身に付けておくべき知識・見識をはじめとして、求められる資質能力を備えるための実質的な手助けができるように、①教育課題や文科省、県教委等の資料の提示、②演習、話し合い等の相互交流の場の設定、③学校での指導技術や児童生徒へのかかわり方などの例示、等に留意しながら学校現場における具体的な内容を中心に授業を進めました。

学校現場では、学習指導や生徒指導をはじめとする日々の指導に加えて、小学校は平成32年度、中学校は平成33年度から新教育課程が全面実施となります。道德の教科化や小学校での英語科の取り組み等、さまざまな改革が進んでいます。受講生の皆さんには、将来、学校現場で活躍できるよう、専門的な知識を身に付けるとともに、様々なことに興味を持つことで、総合的な人間性を磨いてほしいと思います。



6月5日(月)に本年度の合同研究集会が開催されました。第3学年東組の国語科「段落どうしの関係に気を付けて解説文を書こうー『自然のかくし絵』ー」の授業が公開されました。「やさしい」雰囲気の中で、児童のかかわり合いがあり、どの児童も意欲的に参加している様子が印象的でした。

授業後の全体会では、まず、本年度の坂出小学校の研究主題についての説明がありました。メインタイトルに「学びに熱中する子どもの育成」(2年次)を掲げ、サブタイトルは「学習意欲を育て、他者と協働しながら考え続ける力を育む授業づくり」というものです。とりわけ「他者と協働しながら考え続ける力を育む」という視点は、今日的に見ても非常に重要な授業づくりの視点になると考えられます。研究主題の検討後、授業リフレクションに入りました。当初の予定時間をオーバーする白熱した討議会になりました。

今後より研究が深まっていきます。来年1月の第100回教育研究発表会では、ぜひ「学びに熱中する子どもの姿」を見ていただきたいと思います。  
(文責：山岸知幸／撮影：松下幸司)

## 附属高松中学校 教育研究発表会 報告

### 研究主題

未来を創造する学びの追求

### 豊かな表現と深い学びを育む教育課程の創造

ー「コミュニケーション能力」「創造的思考力」を育成する新領域「創造表現活動」の開発ー

香川大学教育学部附属高松中学校

平成29年度研究発表会を6月9日(金)に開催しました。本校は、文部科学省から4年間の研究開発学校指定(平成27年4月ー平成31年3月)を受け、これからの時代に求められるコミュニケーション能力、創造的思考力を育成する新領域「創造表現活動」を創設したカリキュラムを開発しました。創造表現活動は、相手意識をもったよりよい表現を追求する「プラム」と、自己の生き方・在り方を問い直し、価値の更新につなげる「人間道徳」で構成しています。

発表会では、3つのプラムの授業と1つの人間道徳の授業を公開しました。その後、「新領域『創造表現活動』の可能性」というテーマでパネルディスカッションを行いました。岡田涼先生(香川大学)、七條正典先生(香川大学)、磯田文雄先生(名古屋大学アジアサテライトキャンパス学院)から、本カリキュラムでどのように資質・能力を育むのか、これからの教育にどのように影響を与えるかという視点からご助言をいただきました。一方、教科学習は、「各教科を学ぶ意義とは何か」「教科の本質に向かう深い学びを実現するために各教科はどうあるべきか」を問い直してきました。発表会では、9教科の公開授業の後、西岡加名恵先生(京都大学)から「『資質・能力』を育てるパフォーマンス評価」と題し、これからの評価の在り方についてご講演をいただきました。



上：プラム「ワークショップデザイン体験」  
下：数学科「一次関数」

鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要 第26巻 2017	鹿児島大学教育学部附属教育実践総合センター
熊本大学 教育実践研究 第34号 2017	熊本大学教育学部附属教育実践総合センター
2016(平成28年度)熊本大学教育学部フレンドシップ事業 実施・成果報告書 2017(平成29)年3月	熊本大学教育学部附属教育実践総合センター
学校教育実践学研究 第23巻 2017	広島大学大学院教育学研究科附属教育実践総合センター
平成28年度広島大学教育学部フレンドシップ事業 ゆかいな土曜日 実施報告書 平成29年3月	広島大学教育学部フレンドシップ事業運営委員会
心理相談研究紀要 第15号 2016年度	神戸親和女子大学心理・教育相談室
鳥取大学教育研究論集 第7号 2017年	鳥取大学 大学教育支援機構 教員養成センター
心理臨床事例研究 愛媛大学心理教育相談室紀要 第13号 2017年4月	愛媛大学教育学部附属教育実践総合センター 心理教育相談室 愛媛大学大学院教育学研究科臨床心理専攻 臨床心理学コース
琉球大学教育学部 教育実践総合センター紀要 第24号 2017 平成28年度 子ども理解と実践の指導力の向上を目指した 「教育実践ボランティア」に関する実践(21) 報告書 平成29年3月20日	琉球大学教育学部附属教育実践総合センター
愛媛大学教育実践総合センター 紀要 No.35 2017	愛媛大学教育学部附属教育実践総合センター
国立特別支援教育総合研究所 研究紀要 第44巻 平成29年3月	独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所
研究成果報告書サマリー集(平成28年度終了課題) 平成29年5月	独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所
教育方法学研究 日本教育方法学会紀要 第41巻 2015	日本教育方法学会

教職支援開発センター活動報告(2017/04/01~2017/09/30)

4月12日(水) 特別支援教育実践演習 全体指導	6月12日(月) 教育実践集中講座(第一期7回目)
4月13日(木) 教育実践演習 第一回全体指導	6月20日(火) 第三回 専任会議
4月18日(火) 第一回 専任会議	第二回 編集会議
4月20日(木) 教育実践演習 第二回全体指導	6月21日(水) 教育実践プレ演習第二回全体指導
4月27日(木) 教育実践演習 第三回全体指導	7月5日(水) 第一回 運営委員会
5月11日(木) 教育実践集中講座(第一期1回目)	7月10日(月) 教育実践集中講座(第一期8回目)
教育実践演習 第四回全体指導	教育実践集中講座(第一期9回目)
5月13日(土) 教育実践集中講座(第二期2回目)	7月18日(火) 第四回 専任会議
5月15日(月) 教育実践集中講座(第一期3回目)	7月20日(木) 教育実践集中講座(第一期10回目)
教育実践集中講座(第一期4回目)	7月24日(月) 教育実践集中講座(第一期11回目)
5月16日(火) 第二回 専任会議	7月26日(水) 教育実践プレ演習 第三回全体指導
5月18日(木) 教育実践演習 第五回全体指導	教育実践集中講座(第一期12回目)
5月20日(土) 教育実践集中講座(第一期5回目)	7月27日(木) 教育実践演習 第六回全体指導
5月24日(水) 教育実践プレ演習 第一回全体指導	8月26日(土) 公開講演会
5月27日(土) 教育実践集中講座(第一期6回目)	9月12日(火) 第五回 専任会議
6月6日(火) 第一回 編集会議	9月15日(金) 第91回 国立大学教育実践研究関連センター協議会
6月7日(水) 教職実践演習 事前説明会	

教育実践総合研究(第36・37号)原稿募集

『香川大学教育実践総合研究』第36号は平成29年11月30日(木)原稿受付締切、第37号は平成30年5月31日(木)原稿受付締切です。以下投稿要領をご参照の上、奮ってご投稿ください。

香川大学教育実践総合研究 投稿要領

1 (投稿の要領)

香川大学教育実践総合研究(以下「教育実践総合研究」という。)への投稿については、「香川大学教育学部研究報告規程」による他、この要領の定めるところによる。

2 (投稿の内容)

教育実践総合研究は、教科教育、教育臨床など広く教育実践に関する独創的な研究論文・実践報告、資料(研究ノート、研究動向の紹介など)及び香川大学教育学部附属教職支援開発センターの活動報告などを掲載する。

3 (投稿者)

教育実践総合研究に投稿できる者は、「香川大学教育学部研究報告規程」による他、香川大学教育実践総合研究編集会議(以下、「会議」という。)が特に依頼した者とする。

4 (投稿原稿の提出方法)

投稿原稿は、完成原稿とし、原則として電子文書で作成し、印刷原稿2部と、その電子ファイルを会議に提出する。

5 (投稿原稿の長さ)

投稿原稿の長さは、刷り上がり14頁(1頁は21字×42行×2段)以内を原則とし、偶数頁になることが望ましい。超過する場合は、会議の議を経て認めることがある。

6 (刷り上がり1頁目の形式)

刷り上がり1頁目は、和・英文のタイトル・著者名・所属(所在地)、和文要旨(200字)及びキーワード(5語)を含むものとする。

7 (投稿原稿の取り扱い)

投稿された論文等は査読を行い、会議においてその取り扱いを次のいずれかに決定する。査読者については、会議において決定する。

- (1) 採録
- (2) 条件つき採録
- (3) 返戻

8 (校正)

校正は原則として3校までとし、投稿者において速やかに行うものとする。その際、印刷上の誤り以外の訂正、挿入、削除は原則として認めない。

附則

本要領は、平成16年4月1日から適用する。

附則

本要領は、平成17年12月14日から施行し、平成17年11月9日から適用する。

附則

本要領は、平成19年4月1日から施行する。

附則

本要領は、平成27年4月1日から施行する。

香川大学教育学部附属教職支援開発センターニュース  
(No. 5)

発行日 平成29年9月29日 代表者 七條 正典

教職のかゆいところに手が届く。

香川大学教育学部 附属教職支援開発センター

〒760-8522 香川県高松市幸町1-1

Tel.087-832-1683 Fax.087-832-1689

http://www.ed.kagawa-u.ac.jp/~j-cen/

